



地域の安心・安全について



駒見行彦(令和研究会)



問 街頭防犯カメラの設置、着工状況について、最初の5箇所と今後の5箇所、計10箇所程度になるが、今後どのくらいまで増やすのか。

答 都内で発生した事件で、防犯カメラのリレー方式による捜査が功を奏し犯人の早期逮捕に繋がった実績から、来年度以降の予算の中で、昨年と今年度を上回る数を目標に計画的に進めていく。

問 設置場所の選定について自治会やPTAなど、地域住民の声を反映する考えはあるか。

答 防犯カメラの設置目的は何より地域の安全・安心が最優先である。地域住民の声を聞き反映することは一番重要なことであり、今後も地域の声に耳を傾け警察との協議を進め、効果的な箇所の設置を進めていく。

問 住宅用防犯カメラ設置補助金の利用状況や実績は。

答 昨年度の補助金交付は206件で、約528万円の交付額である。今年度についても周知に努めていく。

除草対策(道路・水路・公園等)について



梁瀬里司(令和研究会)



問 市民の方より「行田市の除草は、近隣自治体に比べて少ないのではないかと」、「新しく開設されたわくだま公園の除草も管理できていないのではないかと」との話をいただいている。市による除草作業の現状を伺う。

答 道路・水路の本年度の除草の実績は、10月末で249件の要望に対して、181件実施している。

公園については、89公園のうち指定管理者管理の3公園は、適宜除草作業を実施。66公園は、自治会などに管理を委託。残る20公園は、年に2回程度除草を実施している。また、公園の除草要望10件は、全てに対応している。

問 除草回数は、他市と比べてどうか。

答 近隣市に確認したところ、本市とほぼ同様の回数であった。

〔その他の主な質問〕

○古代蓮の里(田んぼアート)経済効果(鬼滅の刃など)

○手話施策推進法について

○騒音・振動対策

子どもたちの未来を見据えた学校統合について



小林淳一(令和研究会)



問 なぜ義務教育学校を選ぶのか？

答 児童生徒数の減少や施設の老朽化を踏まえ、9年間一貫した教育が可能な義務教育学校が最適と判断した。中1ギャップの解消や異年齢交流による社会性の育成など教育効果も期待される。

問 地域の理解を得るための工夫は？

答 説明会やワークショップを重ね、丁寧な情報発信と地域との対話を進めていく。

問 子どもたちの学びや心にどんな影響があるか？

答 9年間の一貫教育により、発達段階に応じた指導が可能となる。中1ギャップの緩和や学習意欲の向上も期待される。異年齢交流を通じて社会性や思いやりの心も育まれると考える。

問 教員数の減少が懸念されるが、教育の質は保てるか？

答 統合により一校当たりの教員数が増え、教員同士の連携や研修が活発になる。業務の分担が進み、児童生徒と向き合う時間も確保される。